

頑張っ行ってこうな」という言葉の様に。しかし、まだ完走し終えていないのに——。いろんなことが思い起こされます。まず第一に先生は、いつも暖かく見守り、自由に研究を行えるように、そして落ち込みそうときは常にささえてくださり、これはたいへん心強いものでした。時にはお互いの意見が異っても、議論し、二人三脚でこれたのは、お互いに根底での信頼関係が築かれていたからこそであり、先生の人柄によるものです。経験のない私を会社によく連れて行き、企業、社会についても勉強させてもらったことは財産となりました。先生の純真な行動は「哲ちゃん」の愛称で多くの方々に親しまれ、決断と実行力はその実績が物語っています。そして大講座のこと、学生のことを最後まで人一倍いつも気遣われていました。これからも我々をお護りください。合掌。(とてもこの行数では表現しつくせません。) (助教授 石田 誠)

私が中村先生の助手として勤めさせていただいたのは約1年半でした。先生とはある国際学会で初めてお会いしましたが、その際先生が私の事を覚えて下さり、私の卒業時に助手赴任のお誘いをかけて下さったのが技科大赴任のきっかけでした。先生は、集積回路およびインテリジェントセンサの重鎮として高名な方であり、また研究設備の素晴らしさも聞きおよんでおりました。卒業前に技科大を見学させていただいた際は、お忙しい中先生みずから研究室の案内をして下さりとても感激した事を思い出します。助手として赴任してからは、先生のSOI技術に関する深淵な知識やセンサに関する深い洞察、集積回路に関する経験、さらには学会や企業とのつながりなど多くの事を教えていただきました。ようやく、技科大にも慣れ研究成果が出始めた頃にその報告も十分できぬまま先生が天に召された事は運命とはいえやりきれない思いがします。しかし、先生の遺志を継いで少しでも多くの研究成果を挙げ、多くの学生を育てる事が天国の先生へのお返しだと考えて日々を過ごしております。

(助手 松本佳宣)

私は、平成5年4月に豊橋技術科学大学に赴任しました。したがって、中村先生とご一緒に仕事ができしたのは、2年足らずの短い期間でした。その僅かな期間ですが、中村先生のお人柄に十分接することができたと思います。

中村先生は、豊橋技術科学大学に赴任されてから、大学における半導体工学の教育研究活動にご尽力されたのは、今さら言うまでもありません。しかしながら、先生の構築された現在の環境は、日本はもとより世界にも誇りうる立派なものです。現在、半導体産業は日本産業の米といわれて久しいですが、中村先生はその産業の米を育成し、築き上げてきた偉大な教育者の一人であったのではないのでしょうか。

さあ、これからという時に中村先生は永眠されました。謹んで哀悼の意を表します。

(助手 大島直樹)

中村先生との出会いは、13年前。「私の実験室には他大学にない集積回路製造装置があり学生だけでは維持管理できない、是非」ということで昭和56年11月、中村先生の集積回路の実験研究の補助をさせて頂く事になり、半導体メーカーでの実習や、最先端の集積回路製造工程の見学など半導体に関する見聞を広めさせていただきました。先生は、専門分野は云うまでもなく、広い視野で物事を見られ、将来なるであろう状況にいかにして達成するか(少し強引なところもありましたが)、日夜努力されていました。奥様に伺うと、先生は夜中一度は起きて研究や仕事の事についてメモを取っていたそうです。「朝飲む一杯のコーヒーはおいしいな」と、よく私のいる部屋で、教育、研究、政治やゴルフの話をしてながら飲んでいました。その姿が今でも目に浮かびます。あの世においても電子デバイス大講座の将来を考えていて下さると思います。合掌

(技官 足木光昭)